



Newsletter

No. 64

2015年9月20日

発行 レイバーネット日本

〒173-0036 東京都板橋区向原 2-22-17-108

http://www.labornetjp.org

labor-staff@labornetjp.org

電話 03-3530-8588 FAX 03-3530-8578

時代の責任を果たそう！

## 「戦争する国」にしてはならない

8月30日、戦争法案・安倍政権への怒りはついに爆発した。12時ごろには、どんどんつめかけた人々で国会周辺はあふれかえった。長崎から飛行機で駆けつけた人、大阪から車で来た人、文字通り全国各地から手弁当でやってきた。正門前の集会は午後2時からだったが、1時すぎには歩道があふれ、ついに車道が決壊した。警察車両もオロオロと撤退した。こうしてメイン集会は、正門前を埋めた巨万の人々を前にスタートした。政党挨拶では民主・共産・社民・生活の党首が並んだ。4党首はしっかり手をつなぎ「戦争法案反対・安倍退陣」にむけての共闘を誓った。断続的に雨が降ったが、参加者は元気いっぱい。正門前車道は怒りの人々の「戦争反対・安倍はやめろ」のコールが渦巻く解放区になった。最後に主催者から「12万人が参加した！」と報告がされると「ウォー」というものすごい歓声起きた。

安倍の憲法破壊に対して、かつてない規模で人々が立ち上がっている。9月17日に強行採決と



も言われるなか、60年安保以来の大闘争が展開されるだろう。私たちは歴史に責任を負っている。一人ひとりがやれることを精一杯やろう。レイバーネットがこれまで培ってきたチカラを出し切ろう。時代の責任を果たすために。

## 新宿ホコ天を埋め尽くした怒りの人々

9月6日夕方の東京・新宿、伊勢丹前の歩行者天国は1万を超える人々で埋め尽くされた。時折雨が降ったが、動じることもない。安倍政権への怒りは学生だけでなく老若男女に広がり、とどまることを知らなかった。シールズの大学3年生さくらさんがマイクを握った。「8月30日、国会前は一人ひとりが意思を表明する人々で埋め尽くされた。この時、これが民主主義なんだと心の底から感じた。民主主義は生きている。ここに体现されている。私たちが主権者として行動する限り、権力者は私たちの自由を押さえつけることはできない」と。空には取材のヘリがブンブン舞うなか、「安倍はやめろ」の大コールが地鳴りのように響きわたった。



戦後70年の声なき声



漫画・壺花

## ことしのレイバーフェスタは12月19日

ことしのレイバーフェスタは12月19日(土)、田町交通ビル6Fホールで開催します。企画はこれから、みなさんの提案などお願いします。3分ビデオなど参加型企画はもちろんやります。いまから準備をお願いします。

\*あなたの会費納入状況は封筒の宛名に書かれています。未納の方はぜひよろしく。また、カンパは常時歓迎です。同封の郵便振替をご利用ください。



## 「ここから時代が見えてくる」 レイバー映画祭 2015 大成功！

ことしのレイバー映画祭は大いに盛り上がった。7月25日（土）午前10時から午後5時すぎまで、東京・田町交通ビル6Fホールには熱い思いの人々が5本の映画に見入った。午前の部。巨大企業サムソンに素手に立ち向かった父親を描いた韓国劇『もうひとつの約束』の衝撃は大きかった。見終わった観客のほとんどが、押さえきれない感動の涙を浮かべていた。その後上映された『天皇の名のもとに』『誰も知らない基地のこと』『ワーカーズ・リパブリック』『メトロレディーブルース3』も好評で、たたかうメトロレディーの登壇で会場が沸いた。「ここから時代が見えてくる」「つながって声を上げることの大事さがわかった」「どの映画も画面が緊張していて心が震えた」などの感想が寄せられた。



参加者は330人に達した。今回は学生無料をうたったが、10人以上の学生が参加した。また映画祭カンパには20人・95000円が寄せられた。このため、今回の映画祭も収支は黒字となった。感謝したい。



## 注目集めた『メトロレディーブルース3』

### 岩本太郎氏の「週刊金曜日」レポート

7月25日、東京・田町で恒例の「レイバー映画祭」（レイバーネット日本主催）が開かれた。今回は韓国で大企業・サムソンの恥部を暴いたことで物議を醸した『もうひとつの約束』や、イタリア人監督が沖縄を含む世界の米軍基地の背景にある軍産複合体の存在に迫った『誰も知らない基地のこと』など5本の強力なドキュメンタリーが並んだが、とりわけ注目を集めたのが、レイバーネット日本の松原明さんと佐々木有美さんの「ビデオプレス」が制作した『メトロレディーブルース3』だ。

東京メトロの駅売店で長年働きながら、契約社員ということで65歳の定年になり、退職金もなく雇い止めに遭うなどの苦境に立たされた女性たちが労組を結成して差別撤廃に向けて闘い続ける模様を描いたドキュメンタリーの第3弾。今回は、この春に遂に雇い止めになった女性らが、勤務先のメトロコマースや親会社の東京メトロの本社にまで押しかけて会社側とやりとりする様子が報告されている。

松原さんと佐々木さんといえば、かつて国鉄分割民営化で職を失った国労組合員らが職場復帰を目指して戦う様子を描いた『人らしく生きよ

うー国労冬物語』が印象深いのが、われわれにとって身近な鉄道の舞台裏で働く人々の苦境を描いたという共通点も含め、今回の作品もまた、その系譜にあると言えよう。

理不尽な形で職を奪われた人たちが、無表情かつ不気味に立ちだかる会社側の管理職に対して思いを爆発させる一方、普段の生活の中での愛嬌ある表情をカメラの前で無防備なくらいにのぞかせたりするなど、全体としてとても人間味に溢れるタッチの作品になっているところも同じだ。

レイバー映画祭の上映後は、松原さんと佐々木さんのほか、作中に登場した「メトロレディー」のみなさんも登壇。

主人公格の一人である後呂良子さんは、自らの闘いを目下戦争法案反対の声を上げる若い人たちにもなぞらえつつ「あきらめずにみんなが団結して声を上げていけば、戦争法案も労働問題も少しずつよい方向に進んでいく。私たちはこれからも闘い続けていきます」と闘争支援への感謝とともに各方面で戦う人々への応援のメッセージも表明した。松原さんと佐々木さんも引き続き彼女たちの闘いを追っていくとのことだ。

（『週刊金曜日』2015年7月31日号）



## レイバーネット TV2015 後期はじまる 「冷飯怖れず立ち上がろう！」永田さん渾身の訴え

夏休みの充電を終え、レイバーネット TV2015 後期は、9月9日に始まった。戦争法案の大詰めを迎えるなかで、その推進勢力と化したNHK 徹底批判の番組だった。元NHK プロデューサーの永田浩三さんは、8月25日の「NHK 包囲デモ」で7分のスピーチをしたが、とても感動的な内容で、YouTube 動画であつというまに3万アクセスをこえた。その永田さんらをゲストに放送したのが、第90号・特集「NHKはアベチャンネルか?～“戦争法案”報道を検証する」だった。

永田浩三さんは、「8.30 デモ」には10クルー出していたが、それがニュースに活かされない。ひどい報道が続いているのは、戦争法案推進の“政治部”がNHKを牛耳っているから」とズバリ問題点に迫った。また「梶井会長はお飾り。ナンバー3で番組

「クロ現」で名番組をつくってきた永田さんの怒りは深かった。そして職員にエールを送った。「NHK職員は高給で安全なところにいる。政権とぶつかるのが怖くて自己保身に走っている。

でもいま、大変な時代を前に、高校生・大学生も顔を出してデモをしている。NHKの職員よ、冷飯を怖れるな！官邸ではなく市民に眼をむけた報道を実行しよう！」と呼びかけた。

山口正紀のピリ辛コラムでは、「安倍70年談話」を取りあげた。「朝日」「東京」を含めてマスコミの論評が逃げ腰のなか、山口さんは「毒まんじゅう安倍談話」の虚偽性を暴き、本質に斬り込んだ。この日の番組は、いまのNHK、ひいては日本社会全体の問題に迫った貴重なものになった。

なおレイバーネットTVは、9月23日は初のオープンチャンネル企画「スレイマン、ブラック企業を撃つ」を放送。10月14日「マイナンバー」から身を守る方法（仮）やヨーロッパの左派運動の可能性など、重要なテーマに挑戦していく。ぜひ皆さんの企画参加・ご支援を訴えたい。



総責任者の板野総局長が一番の「ガンだ」とはつきり語った。32年間NHKではたらし、「Nスペ」

### 欠陥だらけの派遣法案、 参院採決強行を許すな！

9月9日「派遣法改悪案」が参院で採決が強行され、11日にも成立する。法案の目玉とされてきた「雇用安定措置」は実効性がなく、「政策的には直接雇用が原則」といいながらハケンの拡大を黙認し、派遣社員が産休や育休を取得できない現状を調査すらしていない。そんな実態が審議で明らかになったが、問答無用だった。9月1日午後、委員会審議中の国会前では「安倍政権の雇用破壊に反対する共同アクション」の労組メンバーら約70人が座りこんで、抗議の声を上げた。厚生労働委員の福島みずほ議員も駆けつけ「派遣業者の都合ばかりを優先し、派遣労働者の無権利状態を促進する欠陥

ボロボロ法案は廃案しかない」と訴えた。「残業代ゼロ法」など、労働法制とたたかいはまだまだ続く。



### 憲法9条エイエイオー！

#### ～「芸人9条の会」が旗揚げ公演

今度は芸人が立ち上がった。9月5日午後、「芸人9条の会」旗揚げの会が東京・浅草の「ときわホール」で開かれた。登壇したのは、古今亭菊千代（落語）・趙博（歌）・オオタスセリ（コント）・松元ヒロ（コント）の4人。それぞれの芸で、安倍政権への痛烈な政治風刺を表現し、観客を大いに楽しませた。松元ヒロの出し物はおなじみの「憲法くん」。68歳の「憲ちゃん」になりきって観客に語りかける。「私のことを現実合わないから変えるという人がいます。でも、ふつうは現実を理想に近づける努力をするのがあたりまえ。今は理想を現実近づけるのですね。私は自虐的でプライドがない、とも言われます。でも68年間たった一度も戦争で人を殺したことはなかった。それが誇りです!」。ここで大きな拍手が起きた。佐高信の応援トークがあり、最後に全員登壇して「憲法9条 エイエイオー！」と氣勢を上げた。

「芸人9条の会」にはレイバーネット会員のジョニーHや幸野&鬼嫁（三線フォークデュオ）も加わっている。また趙博・松元ヒロもレイバーフェスタ・レイバーネットTVに出演していただいた「仲間」。芸のチカラでより運動が広がっていくことだろう。



# 憲法を体現するデモ～シールズの取材を続けて

木下昌明

むかし『週刊金曜日』の編集部から「日本国憲法」の映画を批評してくれませんか、と頼まれたことがある。引き受けたはいいが、ダンボール箱に詰め込まれた30巻ものビデオ『映像で語るわたしたちの日本国憲法』には仰天した。それを10日ほどかけてみて書いたのだが、返送しようとする「差し上げます」と言われた。処分に困って、以来本棚にずらり。

憲法は第1章の天皇など問題もあるが、国民主権や基本的人権や平和主義をうたっていて、人間が生きていく上での理想ではないかと思われ、ビデオを見るたびに教えられる。が、実はシールズの国会前の抗議行動を撮るようになってから、このビデオをよくみるようになった。

わたしがシールズと出くわしたのは6月12日。この日は報道関係者はほとんどいなくて、ライトも乏しいなかで学生たちはひとかたまりになっていた。その彼らが翌週からこうこうとライトに照らされ、週を重ねるごとにマスコミの話題にのぼり、一躍表舞台におどり出た。

デモといえば、むかしは菜っ葉服にヘルメットで「わっしょいわっしょい」とジグザグデモで走りまわっていた。それが学生デモになると角棒やコンクリートの破片をもって暴力主義を謳歌するようになった。

現在は、180度変わって、突っ立ったまま首相官邸や国会に向かって声を上げる抗議スタイルとなった。それにともなって老人や赤ん坊を抱いた母親、子づれの父親が参加するようになった。車イスの障害者も目についた。一度、警官に坂道を押しもらいながらインターナショナルを歌う婦人を見かけたことがある。

デモは多種多様な人々が参加するようになった。シールズでは、これからパーティーにでも行くのかと思わせる女子学生の姿もあった。結構なことである。官邸前でミサオ・レッドウルフは黒ずくめのハイヒールというスタイルで押し通している。



デモは、いまや報道陣のカメラの放列によって“見られる”ことであり、演劇的でもある。先週、脳科学者の茂木健一郎が、忌野清志郎をマネて歌って踊ってみせた。ネット時代、デモはいまや劇場型になった。

また学生のスピーチもスマホをみながら話す人が多くなった。こんなときスマホが役立つなんて。そのスピーチの終わりに「何年何月何日、わたしは安保法案に反対します。〇〇〇〇」などと、しっかり固有名詞を言ってしめくくる。これが特徴だ。それによって、彼らが抗議行動に自らの意志で参加し、自らの考えを堂々とのべていることがわかる。なかには「デモはこわいんだけど、行動せずにはいられないの」と自らの心境を吐露して笑わせる女子学生もいる。笑わば笑えだ。かつて、日本の若者が、このように堂々と一人一人スピーチしたことがあったろうか。

1960年代のデモは、マルクスの『共産党宣言』が精神的支えであった。それがいまや「日本国憲法」が精神的支柱になっている。そのことをシールズのたたかいは教えてくれる。

(写真は8月28日国会前・撮影 shinya さん)

## 新会員紹介

### ●レイバー映画祭がきっかけ 小松康則

首都圏青年ユニオンの仲間を紹介していただき、初めてレイバー映画祭に参加させていただき、レイバーネットのことを知り、入会しました。大阪では橋下・維新政治とのたたかいが続いていますが、このたたかいを通じて、私たち自治体労働者が、①住民要求実現をめざし共同を広げること、②最低賃金をはじめ、すべての労働者の賃上げと「働くルール」実現に全力をあげることの大切さを実感し、教訓となっています。レイバーネットに入会し、全国のたたかう仲間の姿をはじめ、さまざまな情報に触れることで、私たちの運動の前進、日本の労働組合運動の前進へとつなげていきたいと思えます。よろしく

お願いします。(大阪府関係職員労働組合(府職労)書記長)

### ●『資本論』を勉強しています 山田明人

働く者のセミナー実行委員会の山田と申します。昨年12月から、セミナーを開設しています。労働者、勤労者にとって重要な問題、本質的な問題を設定し、チューターの報告を基に、自由な討論をするという形式で進めています。これまでのテーマは、集団的自衛権と憲法問題、ワイマール憲法の歴史的教訓、派遣法「改悪」などでした。次は、10月18日(日)午前9時半から5時、豊島勤福会館です。テーマは、「市場経済」の本質と限界——マルクス『資本論』冒頭の「商品」経済論から学ぼう。中国に端を発した世界的な株安の中で、その根底をなす商品経済＝市場経済について「資本論」冒頭の「商品論」を中心に検討します。御参加を!

## レイバーネット日本の会員になりませんか

現会員数 555名

ウェブアクセス 1日 5000

会員になれば、自分でニュースやイベント、お知らせを提供できます。レイバーネット日本は組合や個人が全国にアピールできる絶好の場所です。

年会費 3,000円

(B会員 = 5,000円 通常 + TVサポート)

郵便振替 00150-2-607244 レイバーネット日本

銀行口座 東京都民銀行 小竹向原出張所

普通 55002960

入会申込用アドレス apply@labornet.jp.org

電話 03-3530-8588 ファクス 03-3530-8578